



日本音楽教育学会ニュースレター 第67号

目 次

1 学会からのお知らせ

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 第48回大会の開催予告 | 2 |
| 2. 第48回大会における研究発表形態の変更について | 2 |
| 3. 第48回大会の発表募集について | 3 |
| 4. 第8回夏期ワークショップ in 野沢温泉 (第一次案内) | 3 |

2 委員会からのお知らせ

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 編集委員会からの報告とお知らせ | 4 |
| 2. 音楽文献目録委員会からの報告とお知らせ | 4 |
| 3. 選挙管理委員会からの報告とお知らせ | 4 |

3 音楽教育の窓

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1. 〈連載〉音楽・教育・学校 (11) | |
| 音楽環境に対する意識と言語化の役割—音楽教育ができること | Hermann Gottschwsky 5 |
| 2. APSMER 2017 マラッカ大会予告 | 水戸 博道 6 |
| 3. APSCOM 2017 京都大会予告 | 荒川 恵子 6 |
| 4. 国際交流委員会—これまでの活動および現状と課題 | 阪井 恵 7 |

4 会員の声

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1. スポーツイベントの裏方として | 小森 保弘 8 |
| 2. 会員の新聞・近刊等紹介 | 9 |

5 報告

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 平成28年度第4回常任理事会 | 10 |
|-------------------------|----|

6 事務局より

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1 第48回大会の開催予告

第48回大会は以下の通り開催予定です。詳しくは次回のニュースレターと学会HPでお知らせします。

日程：平成29年10月21日（土）・22日（日）

会場：愛知教育大学（刈谷市井ヶ谷町広沢1 URL www.aichi-edu.ac.jp/)

2 第48回大会における研究発表形態の変更について

常任理事会

第48回大会（愛知教育大学）から、会員の研究発表形態として「ポスター発表」を導入します。発表を希望する会員は、「ポスター発表」と「口頭発表」の二形態から選択します。

近年国内外の多くの学会では、ポスターによる研究発表が正式な研究発表形態として採用されています。中には「個人研究発表はポスター発表のみ（口頭発表は無し）」という学会もあり、ポスター発表は口頭発表と同じ重みをもっています。

本学会の大会における個人研究発表件数は、ここ数年100件前後で推移しています。例年、これらの発表を2日間にわたり約16セッションで行っていますが、たくさんの発表が同時進行で行われることになるため、参加者の感想として「限られた件数の発表しか聞くことができず残念」という声が聞かれてきました。ポスター発表の導入によりこうした問題は解決され、研究交流が一層活性化することが期待されます。

海外の学会や、規模の大きな学会でポスター発表を経験した会員は少なからずおられると思われます。こうしたポスター発表会場では活気にあふれた意見交換が繰り広げられ、大変な賑わいを見せています。第48回大会において多くの意欲的なポスターが掲示され、活発な議論が繰り広げられることを期待します。

ポスター発表に関するQ & A

Q. そもそもポスター発表ってどんなものですか。

A. 発表者はひとつの完結した研究発表を、1枚のポスターに表現します。発表当日はポスターの前に立ち、研究内容について説明し、質問に答え、討論を行います。

Q. 口頭発表と同格ですか。

A. 同格です。したがって筆頭発表者になれるのは、口頭発表かポスター発表のどちらか1件です。

Q. ポスターの大きさ、貼り方はどうするのでしょうか。

A. ポスターの作成要領（大きさ、材質等）、掲示時間等のルールは、大会実行委員会が決定します。実行委員会の指示に従ってください。

Q. 院生フォーラムのポスターとどう違いますか。

A. 最大の違いは一つの研究発表として完結したものが求められるということです。院生フォーラムのポスターは大会プログラムに掲載されませんが、研究途上のものや構想段階のものを自由に掲示することができます。

Q. どのように申し込むのですか。

A. 口頭発表と同様、「大会研究発表応募要領」に示される手順に従って申し込んでください。

Q. ポスターを貼れば発表は成立するのですか。

A. ポスター発表の成立要件は、「大会プログラムへの原稿掲載」「掲示時間内の指定場所でのポスター掲示」「掲示場所での責任在席時間内の個別討論（指定された時間にポスターの前に立ち、説明をしたり質問に答えたりする）」の全てをおこなうことです。連名発表者（会員）も原則として責任在席時間にはその場にいることが求められます。非会員の連名発表者も、臨時会員としてできるだけその場にいることが望まれます。

Q. 動画や音声は使えますか。

A. 詳細なルールは大会実行委員会が決定しますが、原則として周囲の迷惑にならない程度の音量と画面であれば利用を許可する方向で検討しています。

3 第48回大会の発表募集について

共同企画（事務局にメールで申込）、口頭発表・ポスター発表（登録システム入力）
 応募締切：6月14日（水）15:00 厳守 応募資格：5月末に2017年度までの学会費納付済

平成29年度の大会発表、大会参加の申込みの時期が近づいてきました。発表資格（HPに内規掲載）、応募要領やHPの案内、大会に関する送付物をよくご確認ください。手続き上のルールに沿わない申込み等がこのところ多くなっています。応募資格を満たさない場合や、締切を過ぎたお申込みには、大変申し訳ありませんが、応じることができません。不明な点については、お早目にお問い合わせいただき、発表や参加の登録が円滑にできますようよろしくお願いいたします。

4 第8回夏季ワークショップ in 野沢温泉（第一次案内）

地域連携型・新しいワークショップの試みー音楽の学びの未来をひらくー

会員持ち寄りワークショップ・コンサート・セミナーを中心としてこども園・小・中学校における実践と会員の活動を連携させた研究会を教育委員会・こども園・学校のご協力のもと、地域に開いて、初秋の北信濃 野沢温泉村で行います。

日 時 ：8月28日（月）/ 29日（火）・30日（水） （プレイベント） （ワークショップとセミナー）	*参加、宿泊とも学会HP等で逐次ご案内します。事前登録制で7月中旬締切予定です。多数ご参加ください。
場 所 ：長野県・野沢温泉	

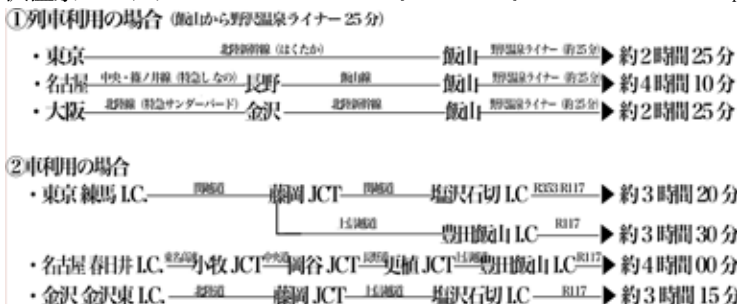
[企画案]：・オペラ「あまんじゃくとうりこひめ」（こども園・プレイベント）

- ・アフリカン・リズム（中学校）
- ・掛け合い歌であそぼう（小学校低学年）

[参加者セミナー]・五線譜にかわる選択肢：フィギュアノートによる演奏

- ・音声分析チュートリアルセミナー
- ・保育者養成課程大学授業研究
- ・学会誌に投稿しよう、アイリッシュ音楽とダンスの夕べ、など。

*野沢温泉へのアクセス 野沢温泉観光協会刊[信州野沢温泉]を参考に作成。詳しくは <http://nozawakanko.jp> をご参照ください。



2 委員会からのお知らせ

1 編集委員会からの報告とのお知らせ

編集委員長 有本 真紀

横浜大会後の投稿締切を12月10日に延長したところ、『音楽教育学』に14本の投稿があった。2月19日開催の第5回編集委員会では、その採否の決定を含め、以下の審議・報告を行った。

- (1) 『音楽教育学』への投稿の採否：投稿原稿のうち再査読1本を含む計13本の査読を行った。再査読となっていた研究論文1本は掲載可となり、新規投稿12本(研究論文11, 研究報告1本)中、3本が掲載可、3本が再査読、6本が不採択となった。
- (2) 2月15日の投稿締切には、『音楽教育学』に5本(研究論文3本, 論考1本, 研究動向1本), 『音楽教育実践ジャーナル』に9本(特集投稿7本, 自由投稿2本)の投稿があった。
- (3) 『音楽教育学』第46巻2号および第47巻1号の編集進捗状況, 平成29年度学会誌年間発行スケジュールと課題について確認, 協議を行った。
- (4) J-STAGEへの登載準備として、『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』バックナンバー各1冊のプレビューチェックを行った。本格的なプレビューチェックは3月以降に行い, 学会誌発行から1年以上を経た記事のうち, 新しいものから順次公開の予定である。

次回の投稿締切は、5月15日(月)必着です。

委員会では、「投稿された原稿の長所を生かす」ことを編集の基本方針とし、委員会の外部にお願いした査読者の判断を参照しながら、どうすれば掲載をめざせるかという観点から査読通知、修正のやりとりを行っています。「投稿の手引き」をよくお読みいただき、積極的に投稿していただきますよう、お願いいたします。

2 音楽文献目録委員会からの報告とのお知らせ

音楽文献目録委員 木間 英子

2016年12月17日(土)、東京音楽大学にて第170回音楽文献目録委員会が開催されました。掲載文献の収集は、機関リポジトリ・Web掲載論文にも範囲を広げていくことになりました。また、分類基準を再確認し、索引項目の抽出方法について見直しを行うなど、ブラッシュアップをさらに進めていきます。減少傾向にある購読者数の回復・増加に向けて、文献目録内容の充実を考えています。なお、3月19日(日)から23日(木)に東京藝術大学で行われる国際音楽学会において、20日(月)、国際RILM本部と日本支部と共同で、RILMセッションが開催されます。

3 選挙管理委員会からの報告とのお知らせ

選挙管理委員長 高橋 雅子

第23期選挙管理委員として、駒久美子、中里南子、長谷川恭子、水崎誠、高橋雅子の5名が小川容子会長から委嘱を受け、互選により高橋が委員長、中里委員が副委員長に選出されました。

第23期日本音楽教育学会会長・理事選挙は、日本音楽教育学会会則、細則、選挙管理委員会規定、会長・理事選挙実施要領に則り平成29年7月3日締切にて実施されます。この選挙によって、今後の学会活動の中心的役割を担う会長・理事を選出することになります。選挙管理委員会では公正かつ正確な選挙事務の遂行に努めますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

3 音楽教育の窓



〈連載〉音楽・教育・学校 (11)

音楽環境に対する意識と言語化の役割—音楽教育ができること

Hermann Gottschwiski (東京大学)

私たちは音楽に囲まれています。それらの音楽の中には自分で作曲・即興・演奏する音楽も、「聴く」目的で選ばれる音楽もあるでしょう。しかしここで話したいのは積極的に近づけようと思わなくても私たちに近づいてくる音楽のことです。例えば映画やテレビ番組に使われる音楽、あるいは式やパーティーなど、音楽が二次的な役割を果たすイベントで演奏されたり再生されたりする音楽、コマーシャル音楽、レストラン、喫茶店、店舗や商店街で流れる音楽、「音楽」と言えるのかどうか分かりませんが、駅で発車の信号として鳴らされるメロディー、携帯電話の着信音などです。この記事では私たちに近づいてくる音楽の総体を「音楽環境」と呼びます。

みなさんは映画を見る時に（あるいはその後）映画音楽についてコメントされますか。喫茶店を音楽の趣味で選んだり避けたりしますか。商店街のBGMに注意して、それを評価・批判しますか。環境音楽はあくまでも二次的なものなので、それにこだわって、うるさく言うと迷惑行為と思われる場合もあるかもしれません。しかし、それらに適度な注意をすることは決して悪いことではありません。認識と知覚によって同じ環境の体験もより豊かなものになります。そしてあなた自身もきっと音楽環境に寄与することがあるでしょう。少なくともあなたの携帯電話の着信音は他人の耳にも入るでしょう。音楽環境は自然にあるものではなく、人間が積極的に作るものです。提供する人は、聞く人がそれらの音楽に注意すると思っていれば、より真剣に考えて、その必要性和効果、流す場所と他の音楽との重なり具合、曲の選択と音量などを気にするでしょう。音楽環境は共同体が支持する音楽文化です。ですから「文化」ではなく「汚染」と見なされる場合、共同体が許す音楽汚染になります。民主主義の社会では共同体全員が音楽環境に責任を負っています。

共同体が音楽環境に責任を持つとすると音楽教育の責任を否定することができません。音楽教育を受ける子どもたちには将来音楽環境を積極的に提供する人も、音楽環境を評価や批判をもって支える人も、音楽汚染の犠牲者になる人も含まれます。したがって音楽環境への批判的感受性を育てることは音楽教育の課題でしょう。そのもっとも重要な手段は意識化および批判力と言語化能力の養成だと思います。つまり意識しなければ批判できないし、批判を言語化できなければ自分の立場を他人と共有できないし、他人と共有できなければ文化に貢献することができません。

教育方法として具体的に考えられるのは、適切な概念（音楽ジャンル、楽器名、音階等）を与えながら「映画音楽」「コマーシャル音楽」「商店街のBGM」などというテーマを子どもの観察課題として出して、学校以外の場面で観察した音楽環境について報告や感想を書かせたり授業で話し合ったりすることです。あるいは子どもが音楽環境を（例えばスマホのアプリなどで）録音したり、責任者や通行人に音楽環境についてインタビューをしたり、自分で音楽環境を作ったりしても良いでしょう。実は私も知りたいのです。大学の食堂で鳴らされる音楽はなぜクラシックばかりで、声楽がなくピアノ音楽が多いのか。だれの趣味でそうなってしまっているのか。そしてなぜ何年経ってもその傾向が少しも変わらないのか。私もそれについて責任者に声をかけたことはありません。もしかするとその人にだれも声をかけないから音楽が変わらないだけなのかもしれません。一度声をかければ食堂の音楽は来月からもう少し面白いものになっているかもしれません。

2 APSMER 2017 マラッカ大会予告



マラッカの典型的な民家

水戸 博道 (明治学院大学)

APSMER (The Asia-Pacific Symposium for Music Education Research) は2年に1回開催され、同じく隔年開催の ISME の世界大会の間を縫って開催されます。今年の APSMER は世界遺産にも登録されているマレーシアの古都マラッカにおいて、2017年7月19日から21日の開催となります。

今回の APSMER のこれまでとの大きな違いは、新しく Spoken Poster というセッションが設けられたことです。実は、この新しいセッションは日本からの発案で、ポスターセッションの前にポスター発表者が、それぞれの研究内容を5分で紹介するものです。

この Spoken Poster の申し込みは任意であり、ポスターセッションだけを行うことはできますが、国際会議で口頭発表をする前段階として、若い研究者に是非とも活用してもらいたいセッションとなります。残念ながら、このレターが出るころは、submission はすでに締め切られていると思いますが、今後、この発表形式が APSMER に定着し、若い研究者の国際会議への入り口となってくれればと思っています。

参加申込みは、早割受付が5月21日、その後は正規料金受付となります。詳しくは <https://www.apsmers2017.com/apsmers> をご覧ください。お問い合わせご参加ください。

3 APSCOM 2017 京都大会予告

荒川 恵子 (京都女子大学)

APSCOM (The Asia-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music / アジア・太平洋音楽認知科学協会) は、日・中・韓・豪における音楽心理学を中心とした学際的な音楽研究領域の学術連合体です。国際大会を3年に一度開催し、隔年開催の上部組織 ICMPC (国際音楽知覚認知学会) と重なる年は合同開催してきました。第6回大会を2017年8月25日(金)から27日(日)まで、京都女子大学及び京都国立博物館講堂にて開催します。

発表申し込みは2017年2月28日に締切りました。現在のところ、プログラムとして安藤政輝氏による箏に関する基調講演及びレクチャーコンサート(安藤珠希氏、奥忍氏、豊田典子氏共演)、Kate Stevens 氏によるシンポジウム他、ガムランのレクチャーコンサート(ダルマブダヤ出演)など準備しています。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

(<http://apscom2017.org/>)

なお、2017年3月25日(土)14時より京都女子大学音楽棟ホールにて、プレイベントを開催します。小川理子氏(パナソニック役員 ジャズピアニスト)、張雷氏(中国文部省中国芸術研究院教授 竹笛奏者 映像監督)によるコンサートです。こちらもお気軽に是非どうぞ。

(お問い合わせ先 荒川恵子 arakawa@kyoto-wu.ac.jp)



ポスターの一部を部分修正して掲載

4. 国際交流委員会—これまでの活動および現状と課題

国際交流委員長 阪井 恵

「国際交流委員会？そういうものがあるらしいけれど、私には関係がありません。」という会員の方は多い、いえ実は大半なのではないでしょうか。無理もないことだと思います。この見えにくい委員会を改めてご紹介しましょう。同時に今後の在り方について、皆様のご意見を募る契機にしたいと考えております。

【発足の経緯など】

国際交流委員会は、2005年に発足（奥忍委員長）しました。発足にはもちろん相応の経緯と必然性がありました。1980年代以降、音楽学、音楽教育学の領域で欧米に留学したり、国際的なネットワークに身を置いて仕事をしたりする人は増えていました。1990年代から2000年前後はその動向が顕著になり、2002～2004年度、村尾忠廣会長のもとでは、音楽学的な視野から音楽教育研究の国際化が推進されています。年次大会には国際色豊かな企画が出るようになり、韓国音楽教育学会とは姉妹学会協定が結ばれます。そうした流れの中、国際交流委員会は発足しました。

【国際交流委員会の業務と委員】

委員会の業務は規定に則り「①音楽教育に関する外国の資料、研究物の蒐集、②外国の音楽教育関係学会との資料、研究物の交換、③外国の音楽教育関係学会との研究交流、④その他、国際交流の目的達成のために必要な事項」となっています。委員は計5名です。理事から1名が出るほかは理事の推薦に依っており、これまでのところ、研究テーマが海外と関連している人が推薦され、委員を務めてきました。任期は2年（連続2期を越えないこと）です。

【学会の国際交流と、国際交流委員会の課題】

学会の国際交流は、2007年度（坪能由紀子会長）の日韓交流ゼミナールを皮切りに、日韓交流が順調に展開しています。しかし現在、国際交流委員会の活動は頭打ちになっています。個々の国際交流行事の実務は実行委員会に委ねられますが、国際交流委員会のメンバーは居住地の関係などから、そこに加われない場合が多いのです。しかし最近の活動としては、水戸委員長、今田委員長が、国際学会の案内やツアーの企画をしたり、ゼミナール「英語で研究を海外に発信しよう」を企画したりして、会員への貢献に努めております。海外で（英語で）研究発表をする若手会員が増えてきたのは喜ばしいことで、少しでも役に立っていただければ幸いです。

学会の年次大会からは、会員が個別にもっている国際ネットワークが確実に見て取れます。私見ですが、国際交流委員会は、このような個人ベースの国際交流から様々な情報を吸い上げ、それを会員に伝えるステーションのような役目を果たせると良いのではないのでしょうか。自分の問題意識や研究を国内学会に問うだけでなく、グローバルな視座から捉え直すことはとても有意義です。海外に関する情報が共有されることによって、学界全体の発展につながることでしょう。ただ、そのような仕組みをつくれるかどうか。今後皆様の知恵をいただきたいと思っております。

その他、委員の決め方なども含め、皆様のご意見をいただければ幸いです。

【あり得る想定】

例えばAPSMERの場合ですが、数年先には、2003年以来久々に日本が開催国を引き受ける可能性を否定できません。そのような場合、学会ベースで積極的に参与することにより、特に若手会員は多くを学び、自分の研究の可能性を見出すに違いありません。国際交流委員会が、多くの会員の協力を仰ぎながら、適切なマネジメント機能を果たせれば、と考えております。

4 会員の声

1 スポーツイベントの裏方として

小森 保弘（福井県国体推進局）

日本音楽教育学会には、現職院生だった平成23年度に入会させていただきました。全国大会や地区例会に参加させていただき、皆さんの様々な研究テーマや研究方法から大いに刺激を受けました。平成25年度からの2年間は県の教育研究所（いわゆる研修センター）に勤務することになり、今度は研修講座を企画する立場で学会に参加して多くの先生方とのご縁をいただきました。研究所では通信型研修の立ち上げと動画教材作成も担当しましたが、ちょうど学会で音楽教育と電子テクノロジーとの関係がクローズアップされた時期で、音楽に対する視野が広がったと思います。

現在私は、来年2018年に開催される第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」と第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」の事務局員として、主に式典音楽の準備に携わっています。この年国体は9月29日（土）から10月9日（火）までの11日間を中心に開催され、続いて全国障害者スポーツ大会が、10月13日（土）から15日（月）の3日間で開催されます。

国体と障害者スポーツ大会で演奏される式典音楽は、各種ファンファーレ（開式通告・開会宣言・選手代表宣誓・閉会宣言・閉式通告）、入退場のための行進曲、各旗の掲揚・降納時に演奏する国歌・大会歌・開催県の県民歌等、表彰場面の音楽、そしてオリンピックの聖火にあたる炬火演出の音楽です。先催県では多くの場合、県ゆかりの作編曲家を起用したり県ゆかりの曲を取り入れたりして楽曲を制作し、県内の吹奏楽団体や合唱団体で式典音楽隊を編成して、両大会の開会式と閉会式で計4回の本番を乗り切っています。事務局ではこれまで、先催県から情報収集しながら、式典の内容を検討する「式典検討会（専門委員会）」や「式典音楽部会」を組織し、式典音楽に関する考え方の整理や内容の検討を行ってきました。楽曲完成後は、楽譜作成、音楽隊編成（各団体への依頼）、指揮者の選定、CD収録、音楽隊衣装の検討、練習会の計画と運営等、いよいよ具体的に動き出すことになります。開催年は春先から部門別の練習会を行い、夏からは式典関係の総合練習会、さらに警備や出演者の輸送も含めて当日のスケジュール通りに実施する総合リハーサルを行ったうえで、秋の本番を迎えます。

ところで、国体や障害者スポーツ大会で用いられる音楽は、式典の音楽だけではありません。開会式ではダンス等の集団演技が披露されますが、演技の伴奏音楽も感動的な式典を演出する重要な要素です。その他、開会式・閉会式で式典の前後に展開されるオープニングプログラム、エンディングプログラム、ファイナルステージ等でも、様々な音楽関係団体やゆかりのアーティストが出演するほか、プロモーションビデオ等も放映され、いずれも音楽が重要な役割を果たしています。さらには広報用に制作されるイメージソングやダンスソング、その他会場のBGMやジングルまで含めると、実に様々な音楽が用いられています。

国体・障害者スポーツ大会の主役は、何といたっても出場する選手です。しかし、バックスタンドからの生演奏で式典進行を支える式典音楽隊や各プログラムの出演者にとって、開会式・閉会式は1回1回が晴れ舞台であり、制作された音楽が人々の間に広がっていく現場といえます。著作権処理上の事情から楽譜やCDが出回る範囲は限定的ですが、近年は公式記録が動画サイトで公開されるケースも増えてきました。様々な音楽が活用される場として注目いただけましたら幸いです。

2 会員の新刊・近刊等紹介

★友永 和恵 『音楽が育む心と言葉～宇宙の鼓動と風のように～』

文芸社 2016/3/15 A5 版・257 頁 ISBN 978-4-286-14813-7 [本体 1,200 + 税]

全ての人間は生命の証、鼓動という形で音楽を持っていると考えている。音楽大学におけるピアノの授業を通して作品に対する研究プロセスが学生の総合的成長に与える影響、学生が音楽と共に豊かになっていく様子を具体的事例で示す。

★松下行馬 CD：板井美知 『KAGURA ～神楽～松下行馬歌曲集』

ファウエム・ミュージック・コーポレーション 2016/6/1 FMC5081 [本体 2,800 円+税]

ソプラノ板井美知の、松下行馬作品を歌った初のアルバム。ピアノは細川恵美子。『レコード芸術』誌 2016 年 8 月号の「新譜月評」において城所孝吉によって〈準推薦盤〉として評価される。

★松下行馬 楽譜集：『KAGURA ～神楽～松下行馬歌曲集』

ファウエム・ミュージック・コーポレーション 2016/8/10 A4 版・185 頁 ISBN978-4-9905887-8-6 C3073 [本体 1,800 円+税]

CD 収録の、神楽に想を得て作曲した《島神楽 I ～III》《神戸祭景》《KAGURA》他 2 曲による作曲者初の楽譜集。五音音階を内包した十二音音階による独自の語法により神楽のもつエネルギーを表現している。

★志村 洋子・今川 恭子・坂井・康子・他著 日本赤ちゃん学会監修 『乳幼児の音楽表現—赤ちゃんから始まる音環境の創造』中央法規 2016/12/10 B5 版・155 頁 ISBN 978-4-8058-5448-8 C3036 [本体 1,800 円+税]

日本赤ちゃん学会が初めて監修した保育者養成課程テキストである本書は、基本的に見開き 2 ページという読みやすい構成になっている。その一方で、「音・音楽と赤ちゃん」をめぐる最新の科学的根拠がふんだんに盛り込まれており、専門的にも読み応えのあるものとなっている。

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下、この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。年度末・年度初めは書籍発行シーズン、書店の入口に教育関係書籍等が平積みされる時期です。書籍の他、CD、DVD などのリリースもお寄せ下さい。書誌情報、基本的な音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお願いします。



唱歌の情景—《ひなまつり》：桃源境のそぞろ歩き

投稿先アドレス (半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

5 報 告

1 平成 28 年度第 4 回常任理事会

日 時：2017 年 2 月 19 日（日）14:30～17:00

場 所：立教大学 16 号館 2 階会議室

出席者：小川，今川，榑藤，今田，奥，加藤，島崎，菅，杉江，坪能，寺田，三村（記録）

【会務報告】〈2016 年 10 月 8 日以降〉

2016 年 10 月 8, 9 日	日本音楽教育学会第 47 回大会（横浜国立大学）
10 月 8 日	平成 28 年度総会（横浜国立大学）
12 月 22 日	『音楽教育学』第 46 巻第 2 号，ニュースレター第 66 号発送
2017 年 2 月 19 日	平成 28 年度第 5 回編集委員会（立教大学）
	平成 28 年度第 4 回常任理事会（立教大学）

【報告事項】

1. 第 47 回大会（横浜大会）会計報告

以下のとおり報告がなされた。

第 47 回大会決算書

収入の部

費 目	金額（円）	備 考
大会本部経費	700,000	学会本部より
出展料（ブース）	260,000	
広告料	420,000	
臨時会員参加費	477,000	6,000×35 人， 3,500×74 人， 2,000×4 人
懇親会参加費	840,000	5,000×168 人
利子	2	
合計	2,697,002	

支出の部

費 目	金額（円）	備 考
懇親会費	600,000	
基調講演謝金・交通費・宿泊費補助	115,250	
シンポジウム謝金	30,000	
記念演奏 I・II 謝金	60,000	
コムラ（業者）委託	246,240	ホームページ，ポスター， チラシ，サーバドメイン費
アルバイト謝金	399,000	
建物使用料	130,896	
弁当代	98,350	
ICT 支援員謝金	25,000	
看板設置費用	24,000	
大会記録録画関係費	82,400	
その他・雑費	31,822	文房具，レターパック， 郵便代，振込手数料他
実行委員会経費	154,044	会議費，連絡経費他
学会本部への返金	700,000	
合計	2,697,002	

2017 年 2 月 10 日

第 47 回大会会計 本多佐保美 印
大田 美郁 印

2. 第14回音楽教育ゼミナール（目白ゼミナール）会計報告（坪能）

第14回音楽教育ゼミナール会計報告

収入の部

項目	金額
平成28年度ゼミナール補助金	300,000
参加費	38,000
計	338,000

支出の部

項目	金額
会議室借用	76,630
振込手数料	432
講師謝礼	100,000
振込手数料	216
電源タップ	3,747
アルバイト謝金	30,000
学会への返金	126,975
計	338,000

3. 平成28年度会計中間報告（島崎・寺田）

今年度会計の見通しについて、全体に収入が多くなったことが報告され、会費収入が過年度会費納金等により予算よりも増額となったこと、学会誌の売上げが増額となったこと、大会実行委員会経費が全額返金されたこと等が理由としてあげられた。支出については、分担金における ISME の団体会員会費について検討され、団体会員のメリットを確認しつつ引き続き国際交流委員会に対応していくこととなった。また、収入増により、印刷機およびパソコンの更新、事務局の環境整備を行った。あわせて、決算時期が近づいてきたので、地区例会運営費の残金については3月中に返金することが要望された。

4. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（杉江）

横浜大会後の投稿締切を12月10日に延長したところ、14本の投稿があった。そのうち、編集委員が共著者として含まれている原稿2本については、「編集委員が投稿した場合の取扱い（覚書）」に照らして編集委員会内での査読・掲載判断は行わず、理事会にゆだねることとし、上記2本を除き再査読を含む計13本についての審議、J-STAGE 登載準備の状況について報告がなされた。

(2) 広報委員会（奥）

No.67の現状が報告された。また、来年度は、予算内で綴じ方を中綴にして、No.68は16頁、No.69は20頁、No.70は24頁、No.71は16頁に変更することが報告された。

(3) 選挙管理委員会（高橋→権藤）

第23期会長・理事選挙の日程が報告、了承された。

(4) 音楽文献目録委員会（木間→権藤）

12月開催の第170回委員会において音楽教育の分野で見直しが行われたこと、その他の報告と、3月に開催される国際音楽学会のRILMにかかわるセッションについての報告がされた。

5. 新入会員名簿作成について（権藤）

現在の入会申込書の項目では、日本学術会議提出の名簿で求められる内容に対応できないため、新入会の際に登録する会員情報の様式の検討をすることとなった。具体的には、プルダウンで複数選択を可能とし、入力方法について改善することとなった。

6. その他

2016年度小泉文夫音楽賞の受賞者2名のうち1名にP. キャンベル氏が選ばれた。日本音楽学会と

東洋音楽学会西日本支部合同例会（6月10日）で記念講演を行う。本学会が共催に加わるには条件が整わなかったため、常任理事会における情報共有にとどめた。

【審議事項】

1. 平成29年度補正予算案にむけて（島崎・寺田）

監査を経てから具体化するが、大会事務局経費、ワークショップ経費等、増額が必要な場合には検討を行う。あわせて、ニュースレター費は据え置きのまま頁数の増加を図ること、事務局員保険費については、来年度の状況に応じて検討することが確認された。

2. 会員の承認手続きについて（権藤）

従来、5月に開催される第1回理事会後に入会手続きを完了した新入会員が大会発表申し込みをする場合、「正式承認待ち」（仮入会）の状態申し込みを受理していた（入会年月日は手続き完了の日付となる）。これを解消するため、5月末日（大会発表資格確認時）以降大会発表受理までの間に理事会ML審議で新入会員の承認を行うこととした。同様の問題は学会誌投稿にも発生しうるのだが、投稿受理後の審査期間中に開催される理事会承認でも問題がないことを確認した。なお、ML審議で承認した件についても次回理事会の段階で確認を行うものとする。

3. 平成29年度ワークショップについて（権藤）

第8回夏季ワークショップの概要が承認された。日時は8月28, 29, 30日（予定）とし、長野県野沢温泉村を会場に、地域と連携した会員持ち寄り型のワークショップとコンサートとする。実行委員は、有本真紀、石川真佐江、市川恵、伊原小百合、今川恭子、加藤富美子、木村充子、桐原礼、小井塚ななえ、小佐川心子、権藤敦子、鹿倉由衣、長井覚子、早川倫子、村上康子の各会員。現地の学校での実践と連携させた研究会は初めての試みなので、企画の内容によっては予算化も検討する。

4. 第48回大会について（報告も含む）

(1) 大会実行委員会との覚書（権藤）

覚書の文言について、「準備金の大部を学会本部に返却することを前提」とあるところ、金額の多寡に触れず「準備金を学会本部に返却することを前提」に改定された。

(2) 学会大会におけるポスター発表・大会発表応募要領（今川・権藤）

研究発表の形態としてポスター発表を導入することが提案され、発表応募要領とあわせて承認された。ニュースレターで会員に周知する。関連して院生フォーラムについても話し合われたが、院生フォーラムは基本的に実行委員会の所管する院生による運営であり、別の性格のフォーラムとして院生に任せていくことが確認された。

(3) 発表登録システム・大会参加システム（権藤）

発表申込に関しては、口頭発表かポスター発表のどちらかを選択すること、システムはトラブルを避けるために正会員用とすることが確認された。

(4) 大会実行委員会企画（新山王→今田）

第48回大会における企画案が大筋において承認された。ただし、発表件数が増加していることに鑑み、プロジェクト研究、共同企画と実行委員会企画を重ねないように、実行委員会企画枠を2時間半（講演50分・シンポジウム90分）で設定するよう企画担当理事から実行委員会に提案、調整を行うこととなった。

(5) 常任理事会企画（坪能・今田）

プロジェクト研究Ⅰは、昨年度に引き続き、若手からの発言ということで様々な研究方法をとって研究している博士後期課程の院生数名の発表を依頼。プロジェクト研究Ⅱでは、「学校教育と社会教育をつなぐもの」（仮）というテーマでアウトリーチ等における今の問題点を明らかにし、2年目には学校と社会の新しい関係構築の提案を目指したい、という企画が提案され、大筋で承認された。合計20万円の予算。

(6) 大会日程等 (坪能・今田)

ポスター発表を導入することを前提に、大会日程の検討を行った。来年度第1回理事会で大枠を決め、発表申し込み後に確定することとする。ポスター発表に関しては、実行委員長に会場等の相談をする。

5. 第49回大会候補地について (小川)

岡山大学で開催することが承認された。

6. 日本音楽教育学会設立50周年記念出版準備委員会* (今川)

『最新音楽教育研究ハンドブック(仮)』のタイトル案と共に、5つの切り口とキーワード集の6部構成案がワーキングの案として示され、大筋において承認された。今後さらに内容を検討していく。なお、ワーキンググループから準備委員会への移行と委員会の正式名称が確認された。あわせて、企画・編集に協力する「編集委員」「編集協力者」の募集要領案が提案され、承認された。3月の学会誌発送時にこの公募文を同封すると同時に、ホームページで企画・編集への参加協力者の募集を開始することとなった。

*「50周年出版準備委員会」の正式名称

7. 新入会員及び退会者について (権藤)

2016年10月7日以降、正会員の新入会員23名について承認された。

新入会員

個人情報につき削除

申し出退会者 正会員 22名
 2017年2月10日現在
 正会員総数 1593名
 学生会員 3名
 名誉会員 3名
 特別会員 3名
 団体会員 5団体
 賛助会員 8社

8. その他

これまで定期購読者にニュースレター送付の希望を確認して同封してきたが、ホームページでの閲覧も可能であり、会員の個人情報も含まれるため、今後、送付しないことにし、通知する。

※次回会議の予定

平成29年度第1回常任理事会・第1回理事会 2017年5月14日(日) 場所・時間未定
 平成29年度第2回常任理事会 2017年7月17日(月) 予定

6 事務局より

事務局長 権藤 敦子

- 1) 本学会の会計年度は4月から3月です。新しい年度の会費は4月中の納入をお願いします。
昨年度、一昨年度が未納の方には、会費納入状況についてのお知らせを同封しておりますので、ご確認の上、複数年度分の納入をよろしくお願いします。会員の権利として重要な、大会での研究発表や学会誌への投稿の受付の可否、選挙の資格は、会費納入状況を確認したうえで判断しております。また、2年間会費が未納の場合には自動的に退会となります。ご注意ください。
- 2) 住所や所属、メールアドレスの変更がある場合には、必ず4月中に事務局へお知らせください。
学会誌等の未着、例会案内や学会からの重要な連絡が届かない等、学会活動に支障が生じます。
- 3) 第48回大会の研究発表締め切りは6月14日(水)15:00厳守です。
同封の応募要領をよく読んでお申込みください。締切を越えて申込みはできません。余裕をもってご入力ください。なお、研究発表に関する情報は、随時学会ホームページ上でお知らせしますので、ご確認ください。
- 4) 大会発表および参加の申込サイトは5月中旬にオープン予定です。
ただし、前回トラブルが多く発生したため、学生会員は当日受付とし、システムからは正会員のみ入力できることになりました。弁当・宿泊の申込については改めてご案内します。
- 5) 既刊の学会誌販売を行っています。
詳しくはホームページをご覧ください。事務局にお問い合わせください。お得なセット販売も継続中です。

【編集後記】

今期広報委員会によるニュースレターはこの67号で季節を一巡したことになります。広報委員会では、これまでの編集方針を踏まえながらも会員の声を少しでも多く掲載して相互交流の場となるよう、一同力を合わせて工夫をしてきました。記事内容の計画を発行日の2ヵ月以上前に立て、1ヵ月前には集まった原稿を割付け、委員と理事会メンバーに回覧して、3週間前には入稿します。計画を立てるときには「ワクワク」、寄せられた原稿に興味「シンシン」、入稿から印刷の仕上がりまではミスがありませんようにと心配で「ドキドキ」します。広報は心理的にダイナミックな作業です。

来年度からは綴じ方を中綴・ホッチキス止に変更して製本費を軽減、その分を増頁に回すことになりました。「会員の最新・近刊等紹介」の頁にはDVDやCDも含めてみなさまの新しい成果をどしどしご寄稿ください。また、新たに入会された方々には、学会に対する希望や、驚かれたこと、感じられたことなど、新鮮な視点による投稿をお待ちしています。(奥 忍)

投稿先アドレス☎ (半角で) onkyoiku_kouhou@gmail.com

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱26 *郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00～15:00

事務局員：亀山さやか・若尾裕子・中村幸子